

【別紙様式Ⅰ】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立荻野中 学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】
---------------	---

校長名 土屋 暁子

学校教育目標	学校経営の方針
「豊かな心」「たくましい心身」「正しい判断力」を持ち 自らの生き方を拓く生徒の育成	・「人権教育」の視点に立った教育活動の推進 ・持続可能な社会の実現をめざす教育活動の工夫

今年度の重点目標

・全職員による協働体制 ・思いやりの心の育成 ・確かな学力の向上 ・安心安全な環境づくり ・未来を拓く力の伸長 ・開かれた学校づくり

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
「心の教育」に関わる取組	2・3	・校内生徒指導会議(週1回) ・校内教育支援会議(週1回) ・教育相談週間の設定 ・こころスマイル支援員、校内教育支援センター支援員、スクールカウンセラーとの連携 ・SCによる1年生への全員面談 ・ミニケース会議 ・保護者との連携 ・生活アンケートの実施 ・人権週間への取組	・生徒指導担当及び教育相談コーディネーターが核となって生徒指導、生徒支援に関わる体制を構築した。 ・こまめな声かけやチャンス相談などを通して生徒とのコミュニケーションを深めるとともに、保護者との連携を密にすることが、生徒の抱えている問題の早期発見や継続的な支援、指導につながった。 ・SCによる1年生への全員面談は、生徒の見取りや支援の手立てに大いに参考になった。 ・校内教育支援センターの運営を通し、不登校や長期欠席傾向にある生徒の支援の幅を広げることができた。 ・生徒アンケート「相談しやすい雰囲気がある」「いじめや差別がない雰囲気」では、肯定的な回答が8割であり、昨年度と大きく変化していない。今年度の取組を継続させつつ、さらにきめ細やかな体制づくりを進める必要がある。	・日ごろからのこまめな声かけ等を通して生徒理解を深め、保護者とも思いを共有しながら生徒指導、支援を行う。 ・校内教育支援センターの運営を工夫改善し、不登校及び長期欠席傾向の生徒の支援を継続させる。 ・他の関係機関とも連携を取りながら、指導、支援の体制を整える。
「学習指導」に関わる取組	1・2	・授業規律の確立 ・分かりやすい授業展開の工夫 ・「学びあい」を取り入れた授業 ・将来を見据えた探究及び進路学習の工夫 ・「考え、議論する道徳」授業の工夫 ・学カステップアップ支援員との連携	・教科部会や教員間授業参観など教員相互が学び合う機会を設けることで、授業の工夫改善につなげた。 ・話し合い活動やGIGAスクール端末を利用した意見交換などを授業に積極的に取り入れ、自己表現力や受容力の育成を図った。 ・総合学習においてはテーマ設定や情報の収集及び分析を通して、計画力や問題解決力の育成につなげた。 ・「考え、議論する道徳」をテーマに校内研究を進め、教員の指導力向上に努めた。 ・学カステップアップ支援員に1年生の数学、英語の授業補助や昼休みの学習補助を依頼し、基礎・基本の定着を目指している。 ・生徒アンケート「授業はわかりやすいか」では8割を超える生徒が肯定的に回答しているが、日ごろの学習状況や全国学力・学習状況調査の結果なども踏まえて、基礎学習力に課題を抱えている生徒への支援を丁寧に行っていく必要がある。	・教員間授業参観の方法を改善し、教員同士で授業力を向上させる機会とする。 ・2、3学年英語と3学年数学で少人数授業を取り入れ、より丁寧な学習支援を行う。 ・家庭学習の習慣化につながる学習指導を工夫する。 ・学カステップアップ支援員と連携し、昼休みの学習会などの学習支援を充実させる。 ・校内研究で学んだ「考え、議論する道徳」の指導を、次年度も継続させる。

「保健安全教育」に関わる取組	2・3	・健康観察 ・毎日の清掃活動 ・避難訓練や集団下校訓練の工夫改善 ・栄養教諭による食育授業の実施 ・チリリンタイムの実施 ・定期的な設備の安全点検	・朝の健康観察や学活での健康教育を通し、生徒が自身の心身の健康について考える機会を設けた。 ・生徒アンケートの、「環境美化に進んで取り組んでいる」の肯定的な回答が9割であることから、清掃活動を通して校内美化へ意識を高めることができたことがうかがえる。 ・長期休業中に教員のみの避難訓練を実施したことは、教員の危機管理能力を高めることにつながった。また、全校生徒によるシェイクアウト訓練では、生徒が自ら判断して行動する場面も多く見られたので、今後も継続して防災意識を高めたい。 ・栄養教諭による学年別の「食育」の授業は、生徒が自身の食生活を見直すことにつながった。	・校内の美化環境や事故防止を促すような取組を、「生徒の活動グループ」と連携して行う。 ・「予告なし避難訓練」や「シェイクアウト」といった、生徒が自ら判断して行動できる機会を今後も継続させる。 ・栄養教諭による食育の授業を継続させるとともに、家庭科や保健体育といった他教科とのタイアップ授業も工夫する。
「生徒の活動」に関わる取組	1・2・3	・生徒会活動の充実 ・学級活動の指導の工夫 ・校内ボランティア活動の活性化 ・地域との連携	・学級活動や委員会活動を通して、望ましい人間関係を構築できるような場を設定している。今年度は生徒アンケート「生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的な回答がどの学年も7割程度にダウンしてしまったが、活動自体は活発に行われている。 ・校内でのボランティア活動や地域行事への参加生徒は一定数いるが、過度な負担がかからない程度に、活動場面や参加生徒数を確保していきたいところである。	・生徒主体で活動できる場の設定や運営方法を工夫して、充実感や所属感を高める。 ・生徒や教職員の負担も考慮しながら、校内及び地域ボランティア活動の場の設定を工夫する。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
・授業や行事を参観していただく機会を設けており、その際、「生徒がいきいきと活動している」「授業に真剣取り組んでいる」等の評価をいただいた。 ・学校運営協議会で学校評価の報告を行い、今年度の課題と来年度の学校経営方針にご理解をいただいた。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
今年度も全教職員と協働して教育活動を進めていくことができた。しかし、支援、指導を要する生徒の姿は多様化しており、教職員がその対応に苦慮した場面も少なくはない。生徒の自己肯定感を高め、同時に他者を思いやる心を育てることで、「学校が楽しい」と思ってもらえるような学校づくりを、工夫改善しながら進めていきたい。				